

言語文化教育研究学会 第3回年次大会プログラム (関西学院大学上ヶ原キャンパス G号館)

1日目：2017年2月25日(土)

9:00 受付開始(受付 G-207)					
9:30 開会式(大教室 G-101)					
10:00-12:30 大会シンポジウム(大教室 G-101)					
<p>言語文化教育のポリティクス シンポジスト：庵功雄(一橋大学), 寺沢拓敬(関西学院大学), 有田佳代子(敬和学園大学) コーディネーター：牲川波都季(関西学院大学)</p>					
12:30-13:10 総会(大教室 G-101) ※会員の皆様は必ずご参加ください(昼食持ち込み可)					
13:30- 一般発表					
フォーラム発表(13:30-15:10)		口頭発表(13:30-15:10)			
第1会場(G-201)	第2会場(G-202)	第3会場(G-203)	第4会場(G-204)	第5会場(G-205)	
①13:30-15:10 ひととひと・ひとと社会をつなぐインタビュー実践の可能性：国際文化フォーラム「ときめき取材記」の試み(三代純平：武蔵野美術大学, 千葉美由紀：国際文化フォーラム, 森亮介：国際文化フォーラム)	②13:30-15:10 機関を超えた言語教育者のつながりが生み出すもの―「土曜の会」を例に(小原俊彦：関西学院大学, 後藤多恵：同志社大学, 滝井未来：大阪大学, 加藤伸彦：立命館大学, 宮本敬太：桃山学院大学, 佐川祥予：大阪大学大学院, 牛窪隆太：関西学院大学)	①13:30-14:00 介護現場における日本語学習者の「聴く」の概念の多様性―正統的周辺参加の学びの事例より―(尹惠彦：関西大学大学院)	②13:30-14:00 言語文化教育がもたらす「オートポイエティック変容」―4技能習得を目的とする教育の脱構築―(新井克之：九州大学大学院)		
		③14:05-14:35 「なにをしますか？」―タスク達成型接触話し合い場面での意思決定に至る過程の事例研究(川上ゆか：広島修道大学)		④14:00-14:40 ※発表時間40分 萌えキャラのポリティクス(名嶋義直：琉球大学)	
		⑤14:40-15:10 インタビューで協働的に構築される「日本語学校の日本語教師」としてのアイデンティティ―元同僚によるインタビューの会話分析―(勝部三奈子：立命館大学大学院)	⑥14:40-15:10 学習者が語った日本語学習動機としてのナショナリズム的言説が持つ意味を考える―フランスの大学生の作文を基に(原伸太郎：立命館アジア太平洋大学)		

ポスター発表 (15:15-16:15)

第6会場 (G-102)	第7会場 (G-103)
①言語学習における情意に関する考察 (鈴木栄: 湘南工科大学)	⑦国際共修場面における共通語としての日本語・英語使用経験の相互作用—SCATを用いた事例的分析— (藤美帆: 広島修道大学)
②大学場面で必要な「機能発話」に対する聴覚印象の比較—日本人大学生と中国人学習者による描写を資料に— (高村めぐみ: 関西学院大学)	⑧サポーターの多様な背景を活かした日本語支援の可能性 (平野莉江子: 立命館大学大学院, 濱寄愛夏, 劉曉雨, 松本理美: 立命館大学大学院)
③日本語の背景をいかに伝えるか—教育のポリティクスにおける分掌— (古川明子: 東京大学)	⑨定時制高校における日本語教師の役割—バイリンガリズムを考慮したクラス活動の一例— (神山英子: 国際医療福祉大学)
④接客場面における日本人社員と外国人社員の認識の相違 (羽鳥美有紀: 東北大学 (中国))	⑩外国ルーツ高校生の日本語作文支援のために—複文の特徴から見えるもの— (松本理美: 立命館大学大学院)
⑤戦後台湾における日本語の社会的地位と日本語世代の日本語使用観—台北と花蓮の比較から— (三浦大明: 横浜国立大学大学院)	⑪「ことば」と「感性」を鍵とした言語文化教育における「第三の場」の構築—幼年教育における絵本の読み聞かせを中心とした活動を例として— (和泉元千春: 奈良教育大学, 岩坂泰子: 奈良教育大学)
⑥「武器」を超える言葉の力—元二世兵士の語りから— (福村真紀子: 早稲田大学大学院)	⑫ことばの生態—関係性が環境であり、ことばを生む、ということについての報告 (齋藤智美: 早稲田大学)

フォーラム発表 (16:20-18:00)

口頭発表 (16:20-18:05)

第1会場 (G-201)	第2会場 (G-202)	第3会場 (G-203)	第4会場 (G-204)	第5会場 (G-205)
③16:20-18:00 言語教師の成長とその支援—日本語学校へのインタビュー調査から考える— (義永美央子: 大阪大学, 渡部倫子: 広島大学, 本田弘之: 北陸先端科学技術大学院大学, 岩田一成: 聖心女子大学)	④16:20-18:00 演劇のある現場における権力問題の再考: ことばと関係の重層性 (飛田勘文: 桐朋学園芸術短期大学, 中山由佳: 早稲田大学, 花崎撰: 日本大学・武蔵野美術大学)	⑦16:20-16:50 タイの日本語教育における教師間の協働に対する意識—チームティーチングを行っている非母語話者教師と母語話者教師のインタビューより— (高橋雅子: 早稲田大学, 中山英治: 大阪産業大学, 門脇薫: 摂南大学)		⑧16:15-16:55 ※発表時間 40分 「異」と「文化」のポリティクス—Active knowledgeを育む言語教育— (オーリ リチャ: 千葉大学, 杉原由美: 慶應義塾大学)
		⑨16:55-17:25 韓国の大学における日本語専攻者のライフキャリア支援と伝版®ワークショップの可能性—伝版®シートの記述分析から— (小松麻美: 蔚山大学)	⑩16:55-17:25 日本国内の非母語話者実習生・教師に焦点をあてた論考の歴史の変遷、現状及び課題 (孫雪嬌: 早稲田大学大学院)	
		⑪17:30-18:00 留学生と日本人学生の共修における課題と可能性 (松本明香: 東京立正短期大学)		⑫17:25-18:05 ※発表時間 40分 「箱根会議」の日本語教育的意味—当事者たちのライフストーリーから (佐藤正則: 山野美容芸術短期大学, 三代純平: 武蔵野美術大学)

懇親会 (18:30-21:00)

2日目：2017年2月26日（日）

9：30 受付開始（受付 G-207）				
10：00- 一般発表				
フォーラム発表（10：00-12：30）		口頭発表（11：45-12：25）		
第1会場（G-201）	第2会場（G-202）	第3会場（G-203）	第4会場（G-204）	第5会場（G-205）
①10：00-12：30 委員企画フォーラム 経験から編み直す言語文化教育ポ リティクス—M-GTAを例として(登 壇者 木下康仁：立教大学，根本愛子： 国際基督教大学，中井好男：同志社大学， コーディネーター 牛窪隆太：関西学院 大学)	②10：00-11：40 文学教材：教育理念の探求（リッピン グス ヴィッキー アン：関西学院大学）			
		①11：45-12：15 国語教育における市民性形成を問 う—『にほんご』（1979）を鏡とし て（横田和子：目白大学）	②11：45-12：15 留学生の日本語ライティングに関 するビリーフ調査—パイロット調 査からの示唆—（長谷川哲子：関西学 院大学）	③11：45-12：25 ※発表時間 40分 複言語能力伸長のための授業が、英 語や他言語学習への意識と意欲に どのような影響を与えるか（山本冨 里：山口大学）
昼食				
口頭発表（13：00-13：40）				
第2会場（G-202）		第3会場（G-203）		
④13：00-13：40 ※発表時間 40分 「学習者主体」から「ことばの市民」へ—ポリティクスとしての歴史と革 新（細川英雄：言語文化教育研究所八ヶ岳アカデミア）		⑤13：00-13：40 ※発表時間 40分 複文化・複言語使用者との出会いとインタビュアーの意識の変容（中山由 佳：早稲田大学，中川千恵子：早稲田大学）		
パネルセッション（13：45-15：45）				
大教室（G-101）	第1会場（G-201）		第2会場（G-202）	
①13：45-15：45 人間・生涯発達から考える言語文化教育—探索期におけるキ ャリア構築とイデオロギー—（北出慶子：立命館大学，嶋津百代： 関西大学，三代純平：武蔵野美術大学）	②13：45-15：45 「ネイティブネス＝権力性」再考：言語教育的文脈による「ネ イティブネス」の多様な様相（大川裕司：ニューサウスウェルズ 大学，吉田真樹：メルボルン大学，田嶋美砂子：シドニー工科大学）		③13：45-15：45 日本語教育の社会実装に向けた日本語教員のエンパワメント ～法学分野との連携事例から考える～（金村久美：名古屋経済大 学，佐藤綾：福井大学，宮島良子：名古屋大学）	
15：45-16：00 閉会式（大教室：G-101）				
16：00-16：30 情報交換会（G-209 談話スペース）				